

日本の医療文化を考えてみよう!!

日本の医療文化と
「Nurse Practitioner」

3 資格ではなく目的と技術からNPを論じるべき

大阪大大学院医学系研究科
医療経済産業政策学教授

田倉智之

連載
寄稿

(毎週水曜日)

さて、その医療技術はというと、医師が提供する診察や処置、手術などの医療行為はもとより、検査やリハビリテーション、または看護師が主体的に行う多様なケア(看護行為)などの診療サービスがまず頭に浮かびます。さらに、風邪薬や抗がん剤、カテーテルやペースメーカーのような医薬品や医療材料、CTやIMRTなどの医療機器(診断装置・治療装置など)も臨床現場における技術としてはつきりとしたイメージがあると思います。しかし、もう少し広い視野から医療を眺めてみると、そのほかにも医療技術と呼ぶべきものがあります。例えば、疾病予防や健康改善を促す健康指導などの周辺分野の機能とともに、周産期領域における救急搬送などのインフラストラクチャー、病診連携を行う医療情報や疾病管理プログラムなどの各種システムも広義には医療に必須な技術であると考えられます。

つまり、ケアやケア、機能、システムなどの多様な概念を含みつつも一言で表現される言葉「医療技術」はある意味、医療の全体を体現することにもなり、医療の本質を指し示す重要な概念と言えるでしょう。

■技術はどのように議論すべきか

最初に技術の概念を述べましたが、ここから少し、技術を取り扱う考え方について見ていきましょう。どのような分野でも、新しい事業やシステムを立ち上げる時は、利用する技術やその運用方法について検討が必要になります。例えば、新しい病院を建てる時は、事前に提供する診療サービスの種類や関係する設備、体制を決めておく必要がある。

このような中、社会的に関心が高いテーマについては、技術を厳密に論じることが求められ、先に説明した技術の要素のうち「手段」と「能力」を明確に分けて議論を進めることがあります。つまり、生活や健康に対する影響が大きい旅客や医療、原子力などの産業分野では、「手段(方法・道具)」と「能力(条件・資格)」を区分して事業などの設計を行うこととなります。その理由として、高度に専門的な領域では、同じ手段でもそれを取り扱う能力によって結果が大きく異なり、場合によっては取り返しつかない損失を生むことが挙げられます。例えば、高度で先端的な医療機器などは、それを取り扱うヒトの資質により病気を治すこともできれば、逆に健康を害してしまうこと

もあり得るという訳です。

なお、以上のような検討を行う時、手段を能力よりも先に論じることが必然的であると言えます。つまり、「資格」などの検討は、目的を達成するために必要な「方法」を前提にすることで、はじめに意味をなすこととなります。特に、社会に大きな影響を与える産業分野の多くは、技術イノベーションが盛んであり、多様な学術領域を背景に新たな「手段(方法・道具)」が日々提案されるため、「能力(条件・資格)」はそれらに追従する形で検討せざるを得ないという事情もあります。今後、わが国においてNPという職種や資格が論じられることがあるとしても、やはりこの基本的な考えに沿って議論を進めることが肝要となります。

■NPも技術から眺めるべき

すなわち、「NPを誰がどのような条件で担い、どんな対象や範囲にどのように対応(診療サービスの提供)するのか」という論点に対しては、医療分野の技術革新や社会変遷などを踏まえつつ、「対象とする患者・病気の健康を回復する」という目的に対する手段(方法・道具)」という「医療技術」を第一に規定・分類し、それらに相対する形でNPの能力(条件・資格)を結び付けていくアプローチが必須になるはずだ。

実際、今まで述べてきたようなNPが提供する技術について、その本領を発揮しているパイオニアが臨床現場に数多くすでに存在しており、それらの医療従事者はまさに「医療技術」の概念をNP云々に関係なく実践されていることとなります。医療制度の持続的な発展には、このような方々を認知し適切に支援していくことが、やはり不可欠と言えるでしょう。そこで、今回はNPが提供する技術や価値について、医師や看護師という職種の相互関係から整理を試みたいと思います。

■そもそも技術とは何を指すのか

今回は、「生産効率」という切り口から、医療システムにおけるNP導入の意義を整理しました。今回は、さらに「医療技術」という観点からNPの価値について考えてみたいと思います。

一般に「技術」は、社会を構成する各種の活動において、その目的を達成するために用いられる手段・手法、または能力や体系のことを指す用語です。すなわち、医療の世界では、その最終目的である国民の健康改善に寄与する手段などを「医療技術」と呼ぶこととなります。この医療技術は「手段、なにげなく利用する言葉ですが、以上のような切り口からあらためて考えてみると、多くの内容を包含しておりずいぶん奥が深い概念であることに気づかされます。

profile 田倉 智之氏 Takura Tomoyuki

1992年に北海道大大学院工学研究科を、2006年に東京女子医科大大学院医学研究科を修了し、外資系経営戦略ファームのMG、大阪大医学部の招聘准教授などを経て、10年より大阪大大学院医学系研究科の医療経済産業政策学教授、現在に至る。医療価値などの研究の傍ら、経済産業省のHFSP制度評価や内閣府の少子高齢化の財源再建に関する国際共同研究などの委員、また日本人工臓器学会や日本心臓リハビリテーション学会の評議員を歴任している。